令和2年度　向粟崎小学校評価報告書（年度末）

向粟崎小学校様式

①よくあてはまる　②あてはまる
③あまりあてはまらない　④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	○成果　◆課題　・改善策
学力の向上	基礎学力の確実な定着を図る取組の充実	学年会などで「話す・聞く・書く」の指導の手立てについて共通理解・共通実践が十分でない	**学級の実態に合わせた学習規律の定着のための取組を実施した〔努力指標〕** ※学級経営案の「学習規律」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が75%以上 C:①＋②が60%以上 D:①＋②が60%未満	A 94.4	○日々の指導・意識に加え、聴く話す強化週間で児童の実態に合わせた項目に取り組んだことにより、規律の定着につながった。 ◆形として対話は行っているが、児童の考えを広げたり深めたりする対話にまで至っていない。 ・全員が考えを表現できる再思考の場面を意識して設けていく。
			友達や先生の話を反応しながら最後までしっかりと聞いている〔成果指標〕	児童アンケート	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が75%以上 C:①＋②が60%以上 D:①＋②が60%未満	A 94.2	
	対話的学びのある授業づくり	対話的学びが「意見の出し合い」で終わることがないよう、自己の変容に気づかせる授業づくりが求められる。	**対話的な学びにより、自己の考えを広げ深めるための工夫のある授業づくりを行った。〔努力指標〕** ※学級経営案の「深い学び」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が80%以上 C:①＋②が70%以上 D:①＋②が70%未満	C 77.8	
			話し合いにより、多面的に考えたり、より深く考えたりすることが出来た。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が75%以上 C:①＋②が60%以上 D:①＋②が60%未満	A 90.0	
	学力向上ロードマップの活用	学年・学級間格差が生じないよう、組織的なPDCAサイクルを進めていく必要がある。	**学力向上ロードマップを元に、組織的に学力向上に取り組めた。〔成果指標〕** ※学級経営案の「学力向上」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が80%以上 C:①＋②が70%以上 D:①＋②が70%未満	B 88.9	
	学校評議員による意見		真面目に取り組んでいる様子が見られた。 生きて働く力と学力テストの力を繰り返して伸ばしていく必要がある。				
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	**学年・学級で互いを認め合える具体的な取組をし、成長年表に残した。〔努力目標〕** ※学級経営案の「認め合い」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が80%以上 C:①＋②が70%以上 D:①＋②が70%未満	B 86.7	○前回の中間評価から30ポイント近く上がった。認め合えた実践をふり返り、指導に生かすことができた。 ◆アンケートをもとに、子どものよさという観点を意識して話し合う時間を持てていない。 ・持ち帰ってアンケートを行う時に、自分の頑張りや友達の頑張りについて話し合う時間を持ってもらうように、お知らせ等で働きかけていく。 ◆今年度は、「認める」というところに重点を置いたが、結果として9割に届かなかった。 ・全校的な取組をしながら、学級単位で行える取組も発信していく。
			「キラキラアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①＋②が80%以上 B:①＋②が65%以上 C:①＋②が50%以上 D:①＋②が50%未満	B 74.7	
			友達のよいところや頑張りを認めていますか？〔成果指標〕	児童アンケート	A:①＋②が80%以上 B:①＋②が65%以上 C:①＋②が50%以上 D:①＋②が50%未満	A 81.1	
			友達から認めてもらっていますか？〔成果指標〕	児童アンケート	A:①＋②が80%以上 B:①＋②が65%以上 C:①＋②が50%以上 D:①＋②が50%未満	A 81.8	
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはうまくできない子も多い。	**友達や先生、地域の方へあいさつが定着するよう、工夫して指導した。〔努力指標〕** ※学級経営案の「あいさつ」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が80%以上 C:①＋②が70%以上 D:①＋②が70%未満	B 89.9	○あいさつしようという意識がある児童が増えてきた。 ◆あいさつが苦手な児童をできるように意識を変えさせることが必要。 ・あいさつできている児童を教師や計画委員児童が広めたり、児童全員があいさつに参加させる取り組みを考える。
			子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が80%以上 C:①＋②が70%以上 D:①＋②が70%未満	B 86.0	
			先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる〔成果指標〕	児童アンケート	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が80%以上 C:①＋②が70%以上 D:①＋②が70%未満	A 90.7	
	学校評議員による意見		運動会の後、地域でのあいさつが良くなった。				
健康と安全	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通した基本的生活習慣の確立	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きなどの基本的な生活習慣の定着により、朝ごはんをしっかり食べることが出来る児童を、より一層増やしていく必要がある。	**児童が健康に気をつけて生活するための指導（生活プランニング）ができた。〔努力指標〕**	教職員アンケート（学級経営案）	A:①＋②が90%以上 B:①＋②が80%以上 C:①＋②が70%以上 D:①＋②が70%未満	A 100	○生活プランニングをはまなす自学帳と連動させているので、評価・指導する機会が多い。 ◆わずかではあるが朝ごはんを食べていない児童が固定している。 ・本人への指導とともに保護者への働きかけを粘り強く行っていく。
			子どもは朝ごはんをしっかり食べて登校している。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①＋②が95%以上 B:①＋②が85%以上 C:①＋②が75%以上 D:①＋②が75%未満	A 96.8	
			朝ごはんをしっかり食べて登校している。〔成果指標〕	児童生徒アンケート	A:①＋②が95%以上 B:①＋②が85%以上 C:①＋②が75%以上 D:①＋②が75%未満	A 96.9	
	学校評議員による意見		家庭では、親が子育てに奮闘している。 先生方のがんばりと子どもへの優しさに感謝している。				
地域との連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていく必要がある。	**地域人材を活用した授業を行った。〔成果指標〕** **①：3回以上　②：2回** **③：1回　④：0回**	教職員アンケート	A:①＋②が80%以上 B:①＋②が65%以上 C:①＋②が50%以上 D:①＋②が50%未満	D 43.8	◆コロナ感染拡大防止のため活動が制限された、地域人材を十分に活用できなかった。 ・感染防止対策を講じた中で、できる範囲のものに積極的に取り組んでいく。
	学校評議員による意見		地域の人材や教材を生かして指導を充実させてほしい。				
働き方改革	業務の適正化を図るとともに、「ノー残業デー」の具現化を図る	月によっては超過勤務時間が80時間を越える職員もいる。	**ノー残業デーには、特別な場合を除き、６時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕** **①毎週　②月２回程度** **③月１回程度　④できなかった**	勤務時間記録	A:①＋②が80%以上 B:①＋②が65%以上 C:①＋②が50%以上 D:①＋②が50%未満	A 85.7	○勤務時間を意識しながら業務を進める職員が増えた。 ◆決まった職員の時間外勤務が多い。 ・業務の平準化を進めていく。
	学校評議員による意見		若い職員が増えていく中で、教育の質を落とさずに学校運営を進めていくことは難しい。 効率的で効果的な業務改善が必要。				